

節目を喜び祝う 天よ、喜び祝え、地よ、喜び踊れ 詩編96編11節

大阪教区主教 アンデレ磯 晴久

9月15日（日）の川口基督教会は、教会創立記念を祝い、洗礼・堅信式を守り、そして長寿の会の開催と喜びに溢れた主日となりました。

私は人生において、「節目」を祝うというのはとても大事なことだと考えています。誕生日、入園式、卒園式、入学式、卒業式、成人式 結婚式、敬老の日…。

前日の9月14日、プール学院では「賀寿の会」が行われました。卒業生や旧教職員で還暦（60歳）、古希（70歳）、喜寿（77歳）を迎える方と、傘寿（さんじゅ・80歳）それ以上の方を祝福しました。元女子学生さんたちが、恥ずかしそうにおずおず前に出て来られて（女子学生に戻っておられました）、学院長である私と成岡チャプレンから祝福を受けました。沢山あるミッションスクールの中で、おそらく賀寿礼拝が行われているのは、プール学院だけだと思います。最高齢は100歳。節目を喜び祝うのは、本当にいいことだと実感させられました。

人生はよくマラソンにたとえられますが、日野原重明さんは、サッカーとかラグビーがいいと生前語っておられました。ご存知の方もいると思いますが、前半と後半の間にハーフタイムがあります。その間に作戦を建て直したり、配置を変えたり、前半戦と後半戦は同じではないのです。後半戦には、前半戦と違った新しい歩みが始まるからいいのだ、と仰っていました。人生の節目は、マラソンの折り返し地点ではなく、ハーフタイムだと言われるのです。新しい後半が始まるのです。教会の洗礼・堅信式も大きな「節目」です。

主の復活のいのちに生き、新しい使命に生きる道が始まるのですから。そして毎日曜日の聖餐式も、大事です。皆ハーフタイムと言えるでしょう。毎週新しくされるとというのは、何という喜びでしょうか。私たちは「節目を喜び祝う」ことを大事にしたいものです。1年を通して、暦を通して、毎週新しい後半戦の歩みが始まる恵みを、感謝し喜び祝いましょう。

（大阪教区 主教）